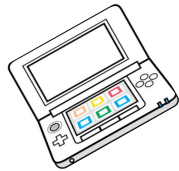


◎子どもたちの夏
～昔はどんな遊びを
してた？(男子編)

集落支援員だより

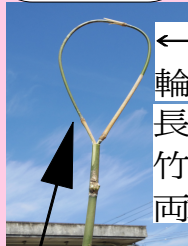
西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行



「♪むーぎわらぼうしはーもう消えたー」などとい口ずさんでしまいたくなるように、夏も終盤です。現代はゲーム全盛の時代。ゲームなどなかったころの子どもたちはどんな遊びをして夏休みをすごしていたのでしょうか？

昔、少年だった人たちに取材しました。すると「自然のモノを使って虫とりをした」という実際を説明してくれました。その中から三つ紹介します。

セミとり①



←細い竹を輪にして、長さ3mほどの竹の先に細竹の両端を差し込む。

輪の部分にクモの巣をなるべくすき間なくつける。コガネグモ（ヤンカイ）とジョロウグモの巣は粘着性が強く、セミを捕まえるのに最適。



セミとり



「肥後の守」
(ノコの歯付もあった↑)



↑これ一本をポケットにしおけば、ほとんどの遊びはこと足りた時代でした。

ハランの葉を丸め、長い竹の先にカズラでしばる。→

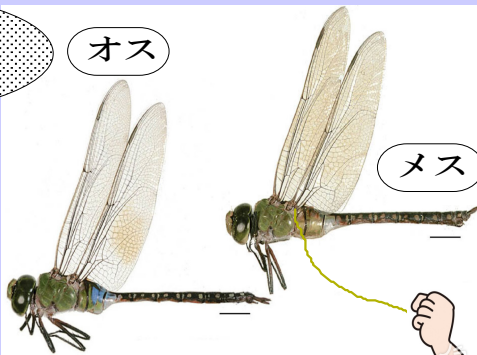
セミとり②



セミにこの葉をかぶせると幹とこの角度とがピッタリと合う。コツはかぶせて突く。するとセミはすぼまった葉の根本へ。

ポーズつい

○夕暮れには、稲刈り後の田んぼにトンボが群れます。
○ポーズが交尾時期ともなると、メスを狙って近づきます。
○その習性を生かして…。



ポーズはギンヤンマのオス。オスに比べてメスの羽は、わずかに黄色がかっている。メスの数が少ないので稀少価値あり…



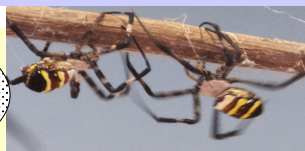
カボチャの雄花の花粉をオスの羽に塗るとメスに変身！

ネーバ（シダの一種）の茎を裂いて取り出し、中にある黄色の筋を変身させたオスの胴に結ぶ。



ネーバの茎は長く、1m近くあるので2～3本つなぎ、はじっこを手を持ち、メスに変身させたポーズを放してとばす。メスと勘違いしたオスが近づき、油断しているところを捕獲。

ヤンカイのイサカ



写真は加治木のクモ合戦

- ①棒の両はしにそれぞれのヤンカイをはわせる。
- ②棒の中央あたりで両者をイサカワスイ。
- ③地面に落とす。または、しりから出す糸で相手のヤンカイをからめたら勝ち。

※地面に落ちかけたら♪上は山山、下は川川と唄いながら、手の平で触れて棒までもどす。

昭和30年代ごろまでは、世の中にはモノがない時代でした。だからそのころの子どもたちは肥後の守を巧みに使って遊びの道具を作り、工夫しながらより楽しい遊びを編み出したのでした。

冒頭の歌はよしだたくろうの『夏休み』ですが、4番の歌詞に「♪畑のどんぼは一どこいったーあのときがしてーあげたのにー」と続きます。そういえば、最近どんぼの群れを見かけなくなりました。

この取材には田本実美さん、長野健太郎さんに協力をいただきました。

